

ハスカップバンクの取組

栽培用・生産用に選抜されたハスカップではなく、もともと苫小牧市に自生していたハスカップに由来するものにしぼり、ハスカップを苫小牧市の郷土木(きょうどぼく)として、市民が自ら増殖し、市内の多くの場所でハスカップが見られるようにしたいという思いから、ハスカップの増殖活動を開始しました。

当初、ハスカップの増殖は、各個人、団体、企業等がそれぞれ個別に行っていました。そのため安定した結果は得られず、うまくいったりうまくいかなかったり、その結果、増殖できた苗木の数は少なく、その後の生育も悪いという共通の問題が浮かび上がりました。また、苫小牧市は北海道の中でも寒冷で積雪が少ない傾向にあります。そのため、一般に広く用いられている増殖方法をそのまま行っただけでは、必ずしもうまくいかない場合も多々ありました

そこで、これらの問題を解決するため、北海道立総合研究機構 林業試験場に技術提供を依頼することにしました。

林業試験場のアドバイスにより、苫小牧市の寒冷で積雪の少ない気候に合った増殖方法を確立することができました(とまこまいスタイルの増殖方法)。さらに、大きく育ったハスカップ苗の移植方法、剪定(せんてい)などのその後の維持管理方法などについても、とまこまいスタイルを確立すべく努力しています。

苫小牧の自生地由来のハスカップを所有する方の情報収集を行った結果、これらのハスカップはほぼ同時期(40年～50年前)に移植されており、株は大きくなり過ぎ、傷みがある状態のものが多く見られました。そこでハスカップバンクでは、これらの株の更新を図るとともに、まず、挿し木増殖を行うこととしました



【ハスカップバンクの構成メンバー】

苫小牧市

苫小牧造園協同組合

苫小牧市シルバー人材センター

出光興産株式会社 北海道製油所

株式会社地域環境計画

苫小牧植物資源協議会

北海道立総合研究機構 林業試験場

北海道石油共同備蓄株式会社